

朝 日 山 城 跡

- 七軒町地区急傾斜地崩壊防止工事に先立つ発掘調査 -

1998年3月
氷見市教育委員会

朝 日 山 城 跡

- 七軒町地区急傾斜地崩壊防止工事に先立つ発掘調査 -

1998年3月

氷見市教育委員会

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の環境	
第1節 遺跡の地理的環境	3
第2節 遺跡の歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 試掘調査の成果	4
第2節 本調査の成果	4
第4章 まとめ	11

報告書抄録

図 目 次

第1図 朝日山城跡と周辺の遺跡	1
第2図 朝日山周辺図	2
第3図 本調査出土遺物実測図	5
第4図 本調査出土遺物写真	5
第5図 B地点イモ穴実測図	6
第6図 試掘調査対象地区平面図	7
第7図 A地点平面図	9
第8図 B地点平面図	9
第9図 B地点からの眺望	12
第10図 B地点堀切全景	12
第11図 B地点イモ穴全景	13
第12図 A地点全景	13
第13図 B地点刻印	13

表 目 次

第1表 試掘調査出土遺物数量表	10
-----------------------	----

例 言

- 1 本書は、富山県氷見市幸町に所在する朝日山城跡の試掘調査と本調査の報告書である。
- 2 調査は富山県の委託を受けて氷見市教育委員会が平成8年度に試掘調査を、平成9年度に本調査（第1期・第2期）を実施した。
- 3 調査事務局は氷見市教育委員会生涯学習課に置き、主事小谷超が調査事務を担当し、課長島勝彦（平成8年度）・石崎久男（平成9年度）が統括した。
- 4 調査は氷見市教育委員会生涯学習課主任学芸員大野究が担当した。
- 5 本書の編集・執筆は大野が担当した。
- 6 調査参加者は次のとおりである。
発掘作業：沢井正雄・浜本清作・沢井とき・沢井きみ・二崎きみ・田口久仁子・坂口愛子・松原秀子・東海舞子・栗一枝・中村すみ子・中村かず子・坂田かずい（以上、氷見市シルバー人材センター）
整理作業：三矢恵京・関谷明美・嵩尾朋昭・日南静
- 7 出土遺物と調査にかかる資料は、氷見市立博物館が保管している。

第1章 調査に至る経緯と経過

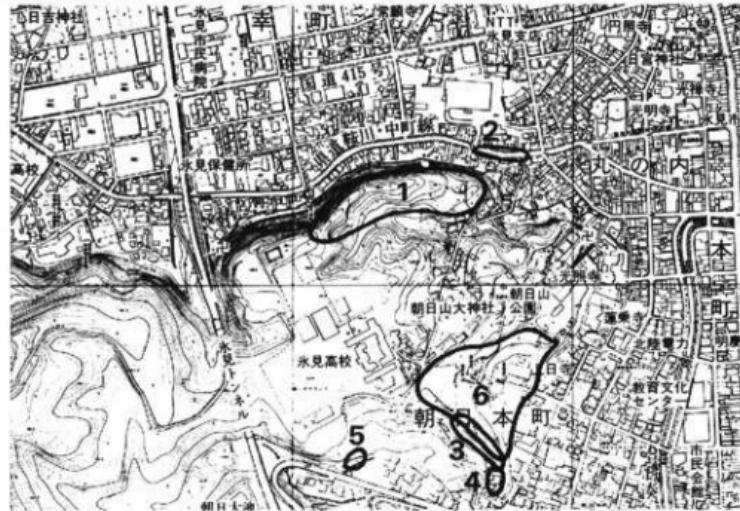
水見市幸町地区内の旧七軒町地区は、急峻な崖下に位置し、崩壊等による災害が予測される地域であった。そこで、背後の丘陵にのり面を構築し、角度を緩めることにより、安全を確保する工事が計画された。

しかし、この工事では、朝日山城跡として登録されている埋蔵文化財包蔵地がほとんど削平されてしまうため、工事に先立ち、埋蔵文化財の状況・性格等を把握するための試掘調査を実施することになった。

試掘調査は富山県（水見土木事務所）の委託を受けて平成8年10月18日から平成9年3月28日までの延べ34日間行った。対象面積は、約10,500m²であり、この地区に任意に幅1mの試掘トレーンチ（発掘区）を31カ所設け、人力により発掘し、遺構・遺物の有無を確認した。発掘面積は計315m²である。また、現状の地形をより詳しく把握するため、対象地区について縮尺百分の一の平面図を作成した。

その結果、人為的な平坦面が確認され、土師質土器破片が出土したA地点（550m²）と、堀切部分のB地点（700m²）について、本調査を実施することになった。

本調査は第1期調査としてA地点を平成9年9月12日から平成9年10月20日まで、第2期調査としてB地点を平成9年10月21日から12月24日まで行った。



第1図 朝日山城跡と周辺の遺跡 (1/10,000)

- 1：朝日山城跡、2：七軒町遺跡、3：朝日寺山古墳群、4：朝日長山古墳
5：朝日谷内横穴、6：上日寺境内推定範囲

第2図 朝日山周辺図(昭和28年測量・太線内が今日の試掘調査対象地区)



第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の地理的環境

氷見市は、富山県の西北部に位置し、能登半島の基部東側にあたる。昭和27年の市制施行から昭和29年までに、太田村を除く氷見郡1町17村が合併し、現在の氷見市が成立した。面積は約230km²、人口は約6万人である。

市域は、北・西・南の三方が標高300~500mの丘陵に取り囲まれ、東側は富山湾に面している。

朝日山城跡は、市街地の西に接した朝日山丘陵に所在する。朝日山丘陵は12~13万年前の下末吉海進期に形成された中位段丘である。標高は85~90m前後であり、宝達丘陵から富山湾に向けて東に伸び、氷見市街地に接してとぎれている。

城跡部分の標高は約40m前後、平野との比高は約35mであり、現在は山林・畠地として利用されている。

第2節 遺跡の歴史的環境

ここでは、朝日谷内以北の朝日山と、その周辺の様子について触ることにする。

第1図の範囲で最も古い七軒町遺跡では、縄文時代後晩期の遺物が採集されているが、詳細は不明である。またこの付近で弥生時代の遺跡は今のところ確認されていない。

古墳時代には、朝日寺山古墳群・朝日長山古墳・朝日谷内横穴が所在する。このうち朝日長山古墳は、宅地造成によって消滅したが、6世紀前葉の前方後円墳であることが発掘調査などにより判明している。一方、近年確認された朝日寺山古墳群は円墳2基から成り、その立地から朝日長山古墳に先行する中期古墳の可能性が指摘されている[※]。

朝日山東斜面一帯には、現在いくつかの寺院が並んでいるが、このうち朝日山上日寺は白鳳10年開基の寺伝をもつ真言宗の古刹である。平成7年から富山考古学会有志によって測量などの調査が継続されているが、15世紀をピークに中世全般の石造物・土器が確認されており、また境内の範囲も現状よりさらに広がり、第1図に示した範囲が想定されている[※]。金橋山千手寺は、同じく白鳳10年開基の寺伝をもつ真言宗寺院であるが、氷見郡渋谷村（現高岡市）から現在地に移転したという伝承もあり、詳細は不明である。また、日蓮宗蓮乗寺は弘化元年（1844）に、浄土真宗光照寺は安永9年（1780）に現在地に移ったという。

一方山の上では、明治41年に現在の朝日山公園が開園し、大正15年には氷見町の火葬場が、さらに昭和3~6年にかけて県立氷見中学校（現県立氷見高校）の校舎・グラウンドが建設され、一部宅地化も進行した。

※ 西井龍儀 1997 「氷見市朝日山上日寺の調査から」『富山考古学会連絡紙』154

第3章 調査の成果

第1節 試掘調査の成果

朝日山城跡は、東西方向にのびる細長い尾根の上に立地する。南側は緩やかな谷をはさんで丘陵が広がり、北側は急峻な崖で平野と接する。この尾根の途中に堀切があることは古くから地元で知られており、昭和38年刊行の『水見市史』にも写真が掲載されている(125p)。また、江戸時代後期の水見町役人田中屋権右衛門の日記『応響雑記』にも、場所は特定できないが、「朝日山のろし台」の記事がみえる(巻四 文政十二年三月十三日)。

しかし、堀切以外の防衛施設は確認されておらず、内容の不明確な城であった。

試掘調査では、この尾根上の堀切以外の平坦面を対象とし、遺構・遺物等の有無を確認した。調査対象地区の大部分は竹林であり、しかも試掘調査は樹木伐採前に行ったため、トレチの設定にはかなり制約があったものの、各平坦面に合計31のトレチを設定し、315m²の発掘を行った。調査対象地区は戦前から戦後にかけて畠地として開かれていた地域で、いずれのトレチでも深さ20~40cmの旧耕作土(現表土)を取り除くと、小砂利を多く含む明褐色土の地山がすぐに検出された。

その結果A地点とした平坦面で詳細時期不明の土師器破片が出土した以外は、中世以前の遺物は皆無であった。また城に関連する遺構も確認されなかった。なお近世・近現代の遺物の出土状況は第1表の通りである。

第2節 本調査の成果

A地点(第1期調査:平成9年9月12日~10月20日)

約10×10mの平坦面を中心とした地区であるが、発掘調査の結果、明確な遺構は確認できなかった。表土を発掘する過程で、平坦面東側で粗悪なコンクリート破片が出土した。地元での聞き取りによれば、この付近には太平洋戦争中に、対空監視施設があったという。軍事施設という性格もあり詳細は不明であるが、木製の電柱が遺存していることとあわせて、コンクリート破片はこの施設に関するものと思われる。それ以外には、中世珠洲が1点あるほかは、いずれも近現代の陶器破片が出土したのみである。

1は、表土中から出土した中世珠洲鉢である。細片のため法量は確定できないが、口縁端部の外傾する、やや小形の器形と思われる。胎土に白砂粒を含み、堅硬な焼成で、暗青灰色を呈する。珠洲II~III期、13世紀頃のものであろう。

B地点(第2期調査:平成9年10月21日~12月24日)

堀切部分にある。堀切の幅は上部で10.5m、底部で4.5mを測る。高低差は東側で約3m、西側で約5mである。堀切東側斜面に、近代のイモ穴が1基ある。長さ2.6m、幅0.6m、高さ1.3mの羨道状の出入口の奥に、幅1.8m、長さ2.5m、高さ1.5mのドーム型の室がつく。出入口の北側の壁面下に沿って、幅10cm、深さ14~20cmの排水溝が掘ってある。

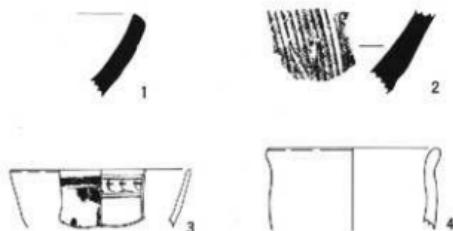
また、堀切西側下部の岩盤に、刻印がひとつ確認されたが、時期・性格は不明である。その他、堀切以外に城と結び付く遺構は検出されなかった。

出土遺物は、中世珠洲1点・近世伊万里1点・近世陶器1点があるほかは、全て近現代の陶磁器であった。

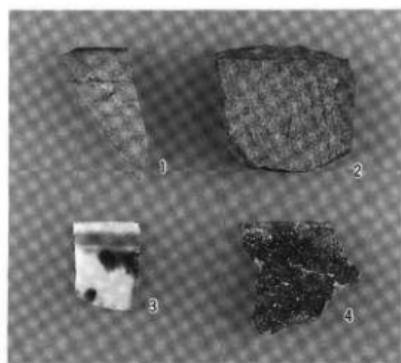
2は、中世珠洲鉢である。堀切底部のイモ穴掘削堆土下の旧表土層から出土した。胴部の破片であり、1単位9条以上の卸目が施されている。胎土に白砂粒を含み、焼成はやや甘く、暗青灰色を呈する。珠洲V～VI期、15世紀代のものであろう。

3は、近世伊万里碗の破片である。口径9.6cmを測る。18世紀頃のものか。

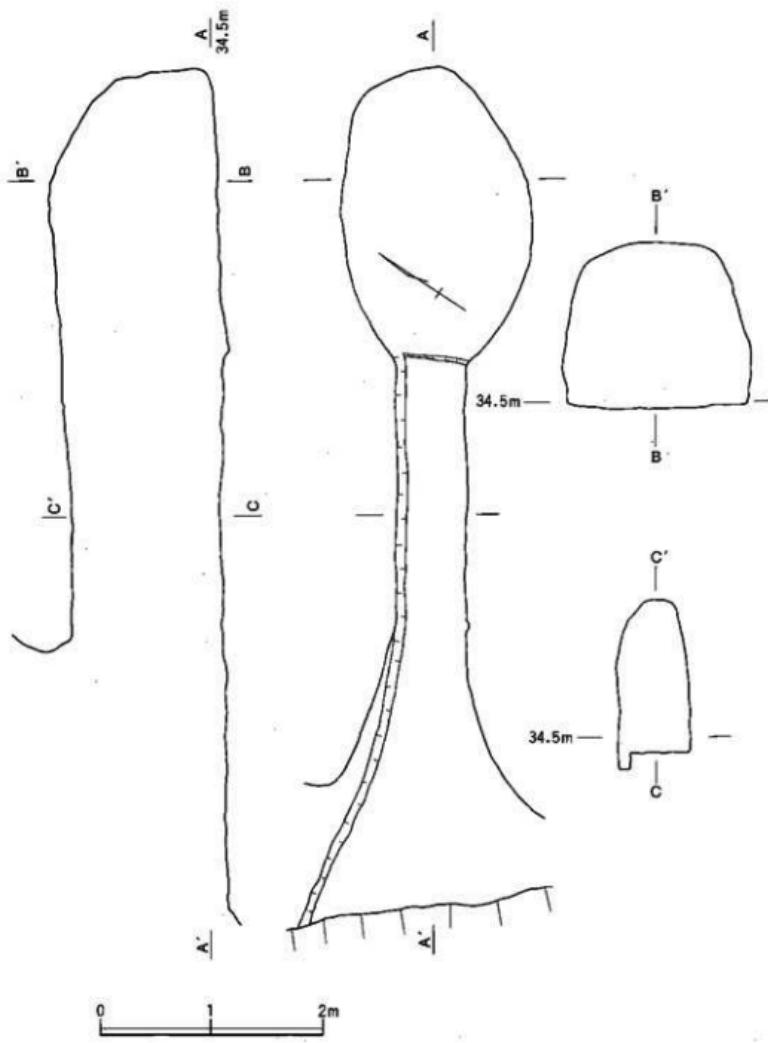
4は、近世の陶器壺であろう。口径9cmを測る。



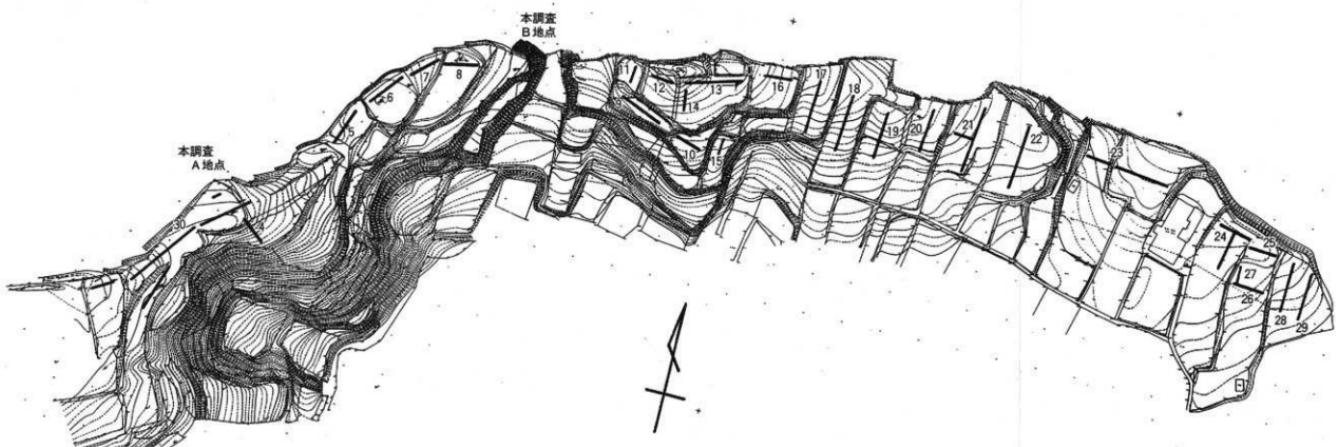
第3図 本調査出土遺物実測図 (1/3)



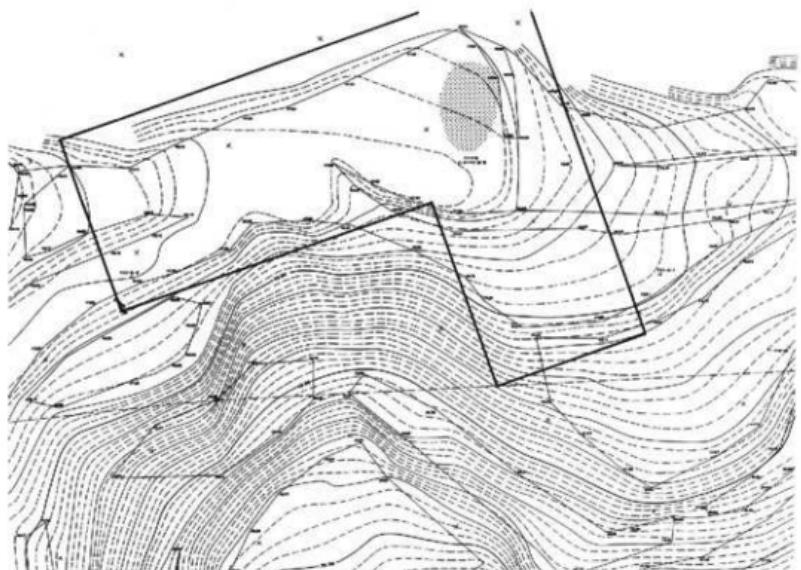
第4図 本調査出土遺物写真



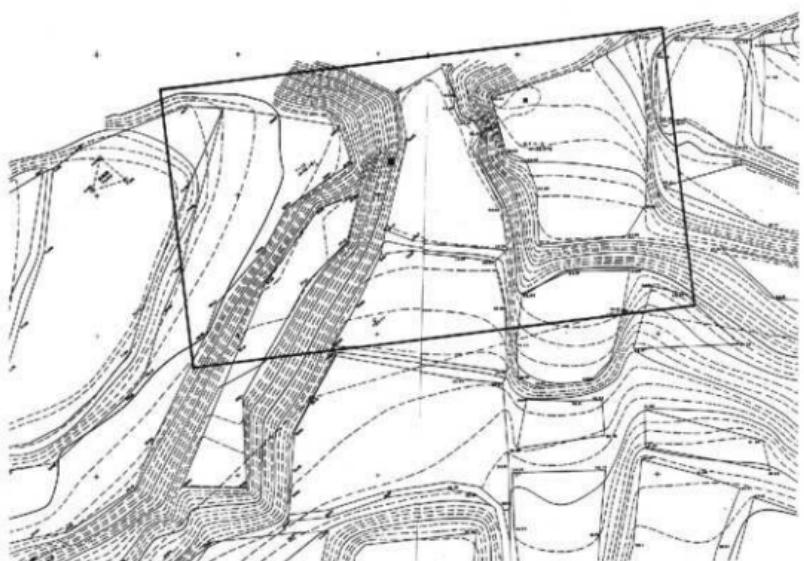
第5図 B地点イモ穴実測図 (1/50)



第6図 試掘調査対象地区平面図 (1/1,000)



第7図 A地点平面図 (1/400) 網点はコンクリート破片散布範囲



第8図 B地点平面図 (1/400) ■印は刻白の場所

第1表 試掘調査出土遺物数量表(近世・近現代)

トレンチ番号	近世	近現代	合計	1m当たり数	備 考
1	0	0	0	0	
2	0	0	0	0	
3	0	0	0	0	他に時期不明の土器片あり
4	0	1	1	0.1	
5	0	4	4	0.5	
6	0	4	4	0.4	
7	0	0	0	0	
8	0	2	2	0.2	
9	1	1	2	0.2	
10	0	1	1	0.2	
11	0	1	1	0.3	
12	0	0	0	0	
13	0	1	1	0.1	
14	0	0	0	0	
15	0	1	1	0.1	
16	0	0	0	0	
17	0	2	2	0.2	
18	0	0	0	0	
19	2	29	31	2.8	
20	0	3	3	0.3	
21	0	7	7	0.3	
22	1	0	1	0.1	
23	7	48	55	2.8	
24	0	3	3	0.2	
25	0	0	0	0	
26	3	62	65	7.2	
27	1	15	16	1.5	
28	0	0	0	0	
29	0	9	9	0.8	
30	0	2	2	0.1	
31	0	2	2	0.1	
合計	15	198	213		

(破片数)

第4章　まとめ

朝日山城跡について発掘調査を行った結果、遺構については新たな知見を得ることはできなかったが、遺物についてはわずかではあるが中世の資料を得ることができた。

城跡の立地は、北側の眺望にすぐれ、千久里城・木谷城・阿尾城・石動山・瀧浦海岸・虻が島などを望むことができる。

調査の結果と合わせると、朝日山城跡は、一時的な砦あるいは見張り場所として利用されたものと思われる。

南北朝・戦国時代の文献には、「氷見城」の名がしばしば見えるが、その場所については諸説あり、未だ決着をみていない。朝日山城跡は14世紀半ばには「北市在家」「南宿」と記され¹⁾成立していたとみられる「氷見添」に近く、「氷見城」の候補地のひとつとされている²⁾。

発掘調査で出土した中世の遺物は、その特徴からこうした文献の時期とはややずれるようであるが、わずかな破片であることをかんがみて、ここでは中世にこの地域が利用されていたことを評価し、朝日山城跡が文献にみえる「氷見城」の候補地のひとつであることを再確認しておきたい。

なお、近世の城跡一帯の山地は、上日寺の持ち山であったとされる。上日寺は白鳳10年開基の伝承をもつ真言宗の古刹であり、「朝日山」を山号にもつ。現在富山考古学会による調査が継続されており、15世紀をピークに14世紀から16世紀の石造物・土器が確認されている。

氷見市立博物館が現在整理を行っている上日寺文書には、薪の無断伐採を禁じる近世の史料が多くみられる。城跡部分は近世には、上日寺の持ち山として、開発されることなく維持されていたものと考えられる。

上日寺の中世の様子を示す文献史料は少ないが、石造物や土器のあり方からすれば、寺と城跡の関連も、今後解明すべき重要な課題といえよう。

注

1 「富山県史」史料編Ⅱ中世 327号文書

2 なお、朝日山の南端にある通称湯山丘陵にも、城跡の伝承がある。

氷見市教育委員会 1995 「朝日貝塚Ⅰ」 氷見市埋蔵文化財調査報告第19冊



第9図 B地点からの眺望（南から）



第10図 B地点掘切全景（南から）



第11図
B地点イモ穴全景（西から）



第12図
A地点全景（西から）



第13図 B地点刻印（東から）

報告書抄録

ふりがな	あさひやまじょうせき							
書名	朝日山城跡							
副書名	七軒町地区急傾斜地崩壊防止工事に先立つ発掘調査							
シリーズ名	水見市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第26冊							
編集者名	大野究							
編集機関	水見市教育委員会							
所在地	〒935-0016 富山県水見市本町4番9号 TEL 0764-74-8215							
発行年月日	1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
朝日山城跡	富山県 水見市 幸町	16205	219	36° 51' 10"	136° 59' 05"	19961018 ↓ 19970328 19970912 ↓ 19971020 19971021 ↓ 19971224	315	急傾斜地崩壊防 止工事に先立つ 試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
朝日山城跡	城跡	中世	堀切・平坦面	珠洲				

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月31日 発行

水見市埋蔵文化財調査報告第26冊

朝日山城跡

—七軒町地区急傾斜地崩壊防止工事に先立つ発掘調査—

編集・発行 水見市教育委員会

〒935-0016

富山県水見市本町4番9号

☎ 0766(74)8215

印刷 ヨシダ印刷株式会社